

## 生態学視点による地域を基盤としたソーシャルワークの展開 —英国チルドレンセンター実践と地方自治体システム等に基づく考察—

山梨県立大学 神山 裕美 (2345)

キーワード：生態学的視点、地域を基盤としたソーシャルワーク、ジェネラリストソーシャルワーク

### 1. 研究目的

現在、日本の社会福祉政策・実践面とも地域福祉の推進や地域での生活支援に向けた多様な取り組みが行われている。そして個別支援中心のソーシャルワークから地域を基盤とした総合的・包括的ソーシャルワーク実践に向けた議論が続いている。その際、個人や家族への支援は多様な議論が行われているが、個人や家族の成長発達や自立支援のためのメゾ・エクソ・マクロレベルの環境への働きかけについての議論は、必ずしも十分とはいえない。地域を基盤とした総合的・包括的ソーシャルワークは、個人や家族へのマイクロレベルの直接支援を行うと共に、組織や地域へのメゾ・エクソレベルの間接支援も求められるが、そのために必要なシステムやサービスはどのようなものが必要とされるのだろうか。

本研究では、地域を基盤としたソーシャルワークの枠組みと生態学的視点の関連を理論枠組みとして、地域基盤の支援を行うモデルとしての英国オクスフォード州のチルドレンセンターの実践とそれを支える地方自治体のシステム等を調査結果について述べる。それらを根拠に、生態学的視点による英国チルドレンセンター実践と地域支援システムより、地域を基盤としたソーシャルワークの展開について考察したい。

### 2. 研究の視点と方法

#### (1) 研究の視点

地域を基盤としたソーシャルワークの理論的枠組みとしては、日本ではジェネラリスト・ソーシャルワークの概念が活用されている（岩間）（山辺）。そして「地域においてソーシャルワークが展開できるシステム」（大橋）や、「ソーシャルワーカーをマクロから政策システムとしてサポートする仕組み」（川島）が求められるが、その展開への議論は十分でないのが現状である。さらに、個別支援ニーズの集積より地域の共通ニーズを発見し、その共通ニーズへの地域支援を実施するコミュニティソーシャルワーク実践と理論についても検討と試行が続いている。

(2) 本研究の方法は以下の3点により行った。1点目は、専門文献と中央政府・地方政府・チルドレンセンターの報告書等による文献研究である。2点目は、イギリスの専門分野研究者より推薦されたオクスフォード州Bチルドレンセンターの事例研究である。内容は2012年6月に実施した、チルドレンセンターにおける4日間のプログラムと1件のケースカンファレンスの参与観察である。3点目は、2012年6月から8月に行ったBチルドレンセンターに関連する人々のインタビューで、子どもの保護者（17名）へ各15分程度の構造化面接と、チルドレンセンターに関わる専門職6名へ各60-90分の非構造化面接を行った。

### 3. 倫理的配慮

本研究のインタビューと、プログラム及びケースカンファレンス参与観察は、対象者に目的や

プライバシー保護等について説明し、同意を得たうえで行った。

#### 4. 研究結果

(1) チルドレンセンターのプログラムは、ユニバーサルな入口としてのサービスと、特別なニーズがある人のためのサービスの両方が提供され、ニーズにより連続した利用も、片方だけの利用も可能であった。

(2) チルドレンセンターでは、子どもと家族が安心できるサービスを身近な地域で提供しながら、子どもと家族ニーズ中心にチルドレンセンターのスタッフや地域の専門連携による直接支援が行われていた。さらに、専門職間のネットワーク形成や多機関連携を進めるための研修プログラムや会議、そしてそれらを促進する委員会が間接的支援として法律や制度に基づき整備されていた。

(3) チルドレンセンターと地方自治体のソーシャルワーカーや保健師の業務は職種によって異なるが、子どもと家族を中心に、個別支援から地域支援、運営管理まで、各機関の各職員が分担して担当し、どの組織もスタッフへのスーパーバイズや会議等が定期的に行われていた。また、各機関とも子どもと親のニーズに合わせて教育・福祉・保健分野等の幅広い連携先をもっていた。しかし、情報共有については徐々に改善されているが、まだ課題は多かった。

#### 5. 考察

(1) 地域における予防的サービスから専門的サービスまでの一貫性

チルドレンセンターを基盤として、利用者中心のサービスと支援システムが、地域において予防的サービスから専門的サービスまで一貫して展開される仕組みがあることがわかった。

(2) 生態学的視点による個別支援から集団・組織・地域支援へのつながり

チルドレンセンターの仕組みを通して、個人の成長発達や困難な問題解決のために、直接的な支援だけでなく、間接的な支援を地方自治体サービスとして充実させていた。チルドレンセンターの子どもと親への支援例を通して、生態学的視点によるネットワークの中で個別課題対応を行う循環を見いだすことができた。

(3) 地域を基盤としたソーシャルワーク展開の課題

「地域においてソーシャルワークが展開できるシステム」形成の重要性と、ジェネリックソーシャルワーク実践レベルの向上を課題としてあげた。それはジェネラリスト・ソーシャルワークを理論枠組とする日本の方向性とも共通した部分であった。